

挑戦 1

もみ殻と桑の木で土壌改良と除塩



もみ殻を潰して桑の育苗培地の作成に成功！

120本の挿し木実験の結果、名取市の塩害農地に植栽した全ての桑が鮮やかな若葉に成長。農地の塩分濃度も基準値以下となり除塩成功！



挑戦 2

仙台白菜の栽培と耕作放棄地の再生への取り組み



桑の木で塩分濃度が低下した農地に、仙台白菜の栽培試験を実施 除塩効果の証明！

上山市の耕作放棄地 20a に桑の木を植栽し、荒れた農地を「桑の緑で再生」！

荒れた農地は除草からスタート。根や石を取り除き、桑を植樹できる土づくりから始まる。



挑戦 3

桑ドーナツと JGAP の認証取得



桑の木の有効活用として、パウダー化した葉っぱから焼きドーナツ作りに挑戦！

桑の葉の粉末を小麦粉・米粉に混ぜて型に入れて焼けばできあがり！添加量と焼加減を試行錯誤してやっと完成！

完成した桑ドーナツ。試食アンケートでおいしいと高評価！彩りもきれい
品質にもこだわり J G A P にも挑戦！



まとめ

桑を栽培する環境保全活動

もみ殻培地で土壌再生

桑を活用した
環境保全サイクルの確立

桑から広がる環境保全のPR

桑の葉粉末で加工食品開発



上山明新館高校

『桑』研究班の挑戦!



きっかけは東日本大震災

上山明新館高校食料生産科3年の村上裕哉さんは、中学校1年の時に東日本大震災を体験し、甚大な被災状況を目の当たりにした。いつか被災地復興の手助けがしたいとの思いから、農業のプロジェクト学習において、もみ殻と桑の木による被災農地の再生研究に取り組みことにした。

研究活動は、「桑の除塩効果を証明する」「桑を名取市に植栽し普及する」「桑の葉の有効活用を図り持続可能な環境保全活動を確立する」「桑を普及し環境保全活動の輪を広げる」という4つの目標を掲げ、村上さんが中心となり、研究班員10名で行っている。

被災地には流木がまだ多く残り、土づくりの過程が一番大変だったと話す同じ研究班の渡邊真奈さん。土づくりから始めた桑の研究が、環境保全に役立ち、さらに東北六魂祭で桑ドーナツを販売するまでに至ったのだから、高校生の行動力には驚かされる。今後も桑の研究を続け、かけがえのない財産である農地を守っていききたいと力強く話していた。

【東北六魂祭】桑ドーナツを販売



JGAP(ジェイギャップ)

食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証。農林水産省が導入を推奨する農業生産工程管理手法の1つ。

上山明新館高校では、全国の高校に先駆けて取り組み、桑を栽培する農場のJGAP認証を全国で初めて取得。

